



愛媛から世界の食卓へ！「素材を活かした日本の味」を届ける 株式会社オカベの海外展開とジェットロ活用術

愛媛県伊予市から全国、そして世界へ。
水産加工品（珍味）の製造販売で躍進を続ける株式会社オカベ。
国内市場での圧倒的シェアに留まらず、異文化の壁を越え、「日本の味」を
輸出する同社の戦略と、ジェットロのサービスの実践的活用法に迫る。

伝統産業の岐路に立つ地方企業

かつて居酒屋の定番として親しまれてきた海産物珍味。しかし国内市場は少子高齢化と人口減少によって縮小の一途をたどり、地方の食品メーカーはいま深刻な岐路に立たされています。愛媛県の人口は2060年には現在の半分にまで落ち込むとも予測されており、需要の減少と労働力不足は、もはや避けがたい現実です。

愛媛県伊予市に本拠を置く株式会社オカベも、こうした課題と無縁ではありません。創業50年、加工小魚市場で国内シェア40%超を誇る同社は、地方企業が直面するこの構造的問題をいち早く認識し、国内市場への依存から脱却する道を模索してきました。

グローバル展開への道筋

◆ タイ生産拠点の設立と国際認証の取得



◆多くの国際認証を取得



創業当初から海外展開を見据えておりましたが、転機は1992年、ジェット口愛媛の開設にさかのぼります。オカベは愛媛県内でもいち早くジェット口のサービスを活用し、大手繊維系企業との協力のもとタイに生産拠点(THAI OKABE PROMOTION CO.,LTD.)を設立しました。これは、国内の漁獲制限や原料価格の高騰という当時の課題に対処するための先見の明ある判断でした。さらに同社は世界市場への参入に必要な国際認証を段階的に整備してきました。FSSC22000・HACCP・ISO9001といった食品安全・品質マネジメント規格を網羅するとともに、2011年にはタイ工場でHALAL認証を取得。これにより巨大なイスラム圏市場へのアクセスを可能とし、2026年以降のタイ国内での販売強化を目指しています。

◆技術力が支えるサプライチェーン管理



輸出人気の「五色煮(5-SEAFOOD CRISPY MIX)」は、イワシ・アジ・キビナゴ・カレイ・エビを絶妙にブレンドした製品です。5種類の異なる素材を安定的に調達・加工し一つの製品にまとめ上げるサプライチェーン管理は、同社の技術力・供給力の結晶といえます。

またアカイシガニを独自製法で甲羅ごとサクサクに仕上げた「玉子ガニ(CRUNCHY CRABS)」は、個性的な商品性とカルシウム豊富な機能性間食として海外から注目を集めています。同社が掲げる「健康・安全・安心・おいしさ」というコンセプトは、グローバルな健康志向トレンドと見事に一致しており、月に数十種類の新商品開発・提案力がその実現に寄与しています。

◆ 柔軟な事業戦略と販路の転換

オカベの経営は、時代の変化に応じた柔軟な対応が際立ちます。創業当初は個人商店への営業が中心でしたが、創業者は健康需要の高まりをいち早く見据え、アーモンド小魚を開発。学校給食市場を開拓することで広く愛される製品を生み出しました。また、コロナ禍以前は同業他社向けの業務用販売が売上の大半を占めていましたが、感染拡大以降は大手コンビニやスーパーのプライベートブランド(PB)製造・販売へと軸足を移しました。いち早く取り組んだ品質管理体制と、自社からの積極的な新製品提案力が、この転換を可能にしました。

成功を支えた二つの柱

◆ ジェトロの活用と人材育成



【ジェトロ活用事例より】

同社とジェトロとの関わりはジェトロ愛媛設立当初にまでさかのぼります。長年にわたる連携のなかで、同社は「輸出プロモーター」制度を活用し、外部専門家の知見を取り込みながら着実に社内ノウハウを蓄積してきました。

さらに「中小企業ビジネス育成塾」には役員自ら率先して研修に臨み、海外向けの資料作成やプレゼンテーション準備を実践。トップが主導することで、社員の意識醸成にもつながっています。今年度はより多くの担当がこの研修に参加し、同社全体へのグローバルマインドの醸成、営業力強化を図っていく予定です。

◆ 「攻め」と「守り」が連動する組織力



同社の競争力の源泉は、品質管理と商品開発が密接に連携する組織構造にあります。FSSC22000 などによる「守り」の品質管理・調達力と、R&D による「攻め」の商品開発・提案力が表裏一体となって機能し、現場での商談から得たフィードバックが即座に製品改善へと反映されます。また外国語話者の積極的な採用により、文化や習慣の壁を越えたきめ細かい対応力も目を見張ります。

伊予市発「海の恵み」が示すグローバル化

創業 50 周年を迎え、グループ総売上 120 億円を目標に掲げる株式会社オカベ。その成長の軌跡は、ウルトラ C なき着実な積み重ねの賜物です。世界標準の基準への対応、先を見越した人材育成、時代に応じた柔軟な経営判断—この三つを 50 年以上にわたり継続してきたことが、今日の成長の基盤となっています。

愛媛の小さな町で磨かれてきた企業がグローバル化を進める姿は縮小する地方市場に悩む多くの中小企業にとって、一筋の道標となるものです。地方から世界へ—オカベの挑戦は、地域企業のグローバル化に確かな可能性があることを証明しています。



株式会社 オカベ

本社(愛媛県伊予市市場 150)

五色浜工場(伊予市下吾川 1693-11)

資本金:5,000 万円(グループ計 10,400 万円)

売上高88億円(グループ計/2025 年 12 月期)

取締役会長 岡部 悦雄

代表取締役社長 岡部 光伸

URL:<https://www.okabe-group.com/>